

2008年11月14日出題

課題 1.

$$\frac{\epsilon_0}{2} \int_{\text{全空間}} \mathbf{E}^2 dv = \frac{1}{2} \int_{\text{全空間}} \rho \phi dv$$

を示せ。

そして半径  $a$ 、全電荷  $Q$  の一様帯電球の電気エネルギーが

$$\frac{3Q^2}{20\pi\epsilon_0 a}$$

となることを上式の両辺を別々に求めて確かめよ。

解答例:

$$\mathbf{E}^2 = (\nabla\phi)^2 = \nabla(\phi\nabla\phi) - \phi\nabla^2\phi \quad (1)$$

Poisson equation

$$\nabla^2\phi = -\frac{\rho}{\epsilon_0} \quad (2)$$

を用いると

$$\mathbf{E}^2 = \nabla(\phi\nabla\phi) + \frac{\rho}{\epsilon_0}\phi \quad (3)$$

を得る。

$$\int_V \mathbf{E}^2 dv = \int_V \nabla(\phi\nabla\phi) dv + \int_V \frac{\rho}{\epsilon_0}\phi dv = \oint_{\partial V} \phi\nabla\phi \cdot d\mathbf{a} + \int_V \frac{\rho}{\epsilon_0}\phi dv \quad (4)$$

となるから、空間領域  $V$  を非常に大きくとると、第二項の面積分の被積分関数はその境界面上では  $\phi\nabla\phi = 0$  となる。よって

$$\frac{\epsilon_0}{2} \int_{\text{全空間}} \mathbf{E}^2 dv = \frac{1}{2} \int_{\text{全空間}} \rho\phi dv \quad (5)$$

が成立する。

左辺を一様帯電球について評価してみよう。

三次元極座標表示  $(x, y, z) = (r \sin\theta \cos\varphi, r \sin\theta \sin\varphi, r \cos\theta)$  を用いて変換すると  $dv = dx dy dz = r^2 dr d\Omega$  と書ける。ここで微小立体角を  $d\Omega = \sin\theta d\theta d\varphi$  と置いた。

$$dv = r^2 \sin\theta dr d\theta d\varphi \quad (6)$$

だから

$$\int_{\text{全空間}} \mathbf{E}^2 dv = 4\pi \int_0^\infty E(r)^2 r^2 dr = 4\pi \left( \int_0^a E(r)^2 r^2 dr + \int_a^\infty E(r)^2 r^2 dr \right) \quad (7)$$

電場は球の内外で異なり、Gauss の法則によりその大きさは

$$E = \begin{cases} \frac{\rho}{3\epsilon_0} r & r < a \\ \frac{\rho}{3\epsilon_0} \frac{a^3}{r^2} & r > a \end{cases} \quad (8)$$

となる。よって

$$\int_{\text{全空間}} \mathbf{E}^2 dv = 4\pi \left( \int_0^a \left(\frac{\rho}{3\epsilon_0} r\right)^2 r^2 dr + \int_a^\infty \left(\frac{\rho}{3\epsilon_0} \frac{a^3}{r^2}\right)^2 r^2 dr \right) = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \left(\frac{3Q^2}{5a}\right) \quad (9)$$

を得る。

右辺を評価してみる。

ポテンシャル  $\phi$  と電荷密度  $\rho$  を用いたエネルギーの公式

$$U = \frac{1}{2} \int_{\text{全空間}} \rho(\mathbf{r}) \phi(\mathbf{r}) dv \quad (10)$$

を使おう。ポテンシャル  $\phi$  は

$$\phi(\mathbf{r}) = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \int \frac{\rho(\mathbf{r}')}{|\mathbf{r} - \mathbf{r}'|} dv' \quad (11)$$

であたえられる。

$$U = \frac{1}{8\pi\epsilon_0} \int dv \rho(\mathbf{r}) \int dv' \frac{\rho(\mathbf{r}')}{|\mathbf{r} - \mathbf{r}'|} \quad (12)$$

を計算すれば良い。

この積分を例えば次のように実行してみよう。

ダッシュつきの座標も三次元極座標で表す。

この問題では、電荷密度は球内でしか値をもたず、 $\rho = \frac{4Q}{3\pi a^3}$  なる一様だから  $d\phi'$  で積分すると

$$U = \frac{\rho^2}{4\epsilon_0} \int_0^a r^2 dr d\Omega \int_0^a r'^2 dr' \int_0^\pi \frac{\sin \theta' d\theta'}{|\mathbf{r} - \mathbf{r}'|} \quad (13)$$

を得る。 $\theta'$  での積分は  $u = \cos \theta'$  なる置換積分により

$$\int_0^\pi \frac{\sin \theta' d\theta'}{|\mathbf{r} - \mathbf{r}'|} = \frac{1}{rr'} [(r + r') - |r - r'|] \quad (14)$$

をあたえる。 $r'$  の積分領域を  $0 \leq r' \leq r$  と  $r' \geq r$  にわけて絶対値をはずして積分する。

$$U = \frac{\pi\rho^2}{\epsilon_0} \int_0^a r^2 \left( a^2 - \frac{1}{3}r^2 \right) = \frac{4\pi\rho^2}{15\epsilon_0} a^5 = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \left( \frac{3Q^2}{5a} \right) \quad (15)$$

という結果を得るが、当然電場の2乗を計算した結果と一致する。

課題 2. 平らな絶縁体の板が  $xy$  面上にある。系の電荷はこの板の上だけである。半空間  $z > 0$  の電位が  $\phi = \phi_0 e^{-kz} \cos kx$  である。ここで  $\phi_0$  と  $k$  は定数である。

(a) この半空間で  $\phi$  はラプラス方程式を満たすことを示せ。

(b) 電場を求めよ。

(c) 板上の電荷分布を求めよ。

解答例:

(a) 単純に計算すると

$$\nabla^2 \phi = \nabla \cdot \nabla \phi = -k \left[ \frac{\partial}{\partial x} (\phi_0 e^{-kz} \sin kx) + \frac{\partial}{\partial z} (\phi_0 e^{-kz} \cos kx) \right] = 0$$

を示すことができる。

(b) この系の電場は  $z > 0$  の場と  $z < 0$  の場が面対称になっていることに注意する。

$z > 0$  の電場は

$$\mathbf{E} = (E_x, E_y, E_z) = \left(-\frac{\partial \phi}{\partial x}, -\frac{\partial \phi}{\partial y}, -\frac{\partial \phi}{\partial z}\right) = (k\phi_0 e^{-kz} \sin kx, 0, k\phi_0 e^{-kz} \cos kx)$$

と計算できる。

一方  $z < 0$  の電場は、上述の結果の  $z$  成分の符号を変えたものになるので

$$\mathbf{E} = (E_x, E_y, E_z) = (k\phi_0 e^{-kz} \sin kx, 0, -k\phi_0 e^{-kz} \cos kx)$$

となることがわかる。

(c) Gauss の法則の積分形を用いると、板の面密度  $\sigma$  は

$$\sigma = 2\epsilon_0 E_z(x, y, 0) = 2\epsilon_0 k\phi_0 \cos kx$$

であることがわかり、 $x$  方向に  $2\pi/k$  の周期をもつ周期的電荷分布である。